

皮脂厚と平均皮膚温との関連について(第1報)
 東城繁輝大 西田田鶴子 船津英智子 花崎正子 福島美沙子 平野俊子

目的 平均皮膚温は、各部位の皮膚温に全体表面積に対する部位の表面積の比率を掛け
 て求めるが、皮脂厚が環境に対する木梢絶縁組織になり、体表面積が同じ場合でも、皮脂
 厚が皮膚温へ影響を与える一要因と考えられる。本報では、皮脂厚と平均皮膚温の関係を
 環境温度別、着衣別、部位安静と歩行の状態で別について検討を行った。

方法 被験者：成人女子(20~24才)103名、気温： 20°C 、 25°C 、 $30^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ の3種。
 測定項目は床研式皮脂厚測定器により、各部位別13箇所(1)の皮脂厚を測定し、同部位におい
 てサーミスター温度計により、皮膚温を測定した。フグラスバッグ方式により呼気採集を
 行ない産熱量を求めた。着衣条件は、厚手の異なる木綿・ポリエステル混紡のTポード地
 とニット地半袖を上衣とし、下衣は同一のスカートとした。発汗量と皮脂厚の差の大きい
 部位2箇所について10分毎に調べた。

結果

1. 全皮脂量と平均皮膚温との関係が認められた。
2. 各部位別皮脂厚と皮膚温についてそれぞれおのおのの相関がみられた。
3. 皮脂量の相違と発汗時間に相関が認められた。
4. 平均皮膚の要因は、(1)状態、(2)環境温 (3)着衣条件、皮脂厚の値とある。